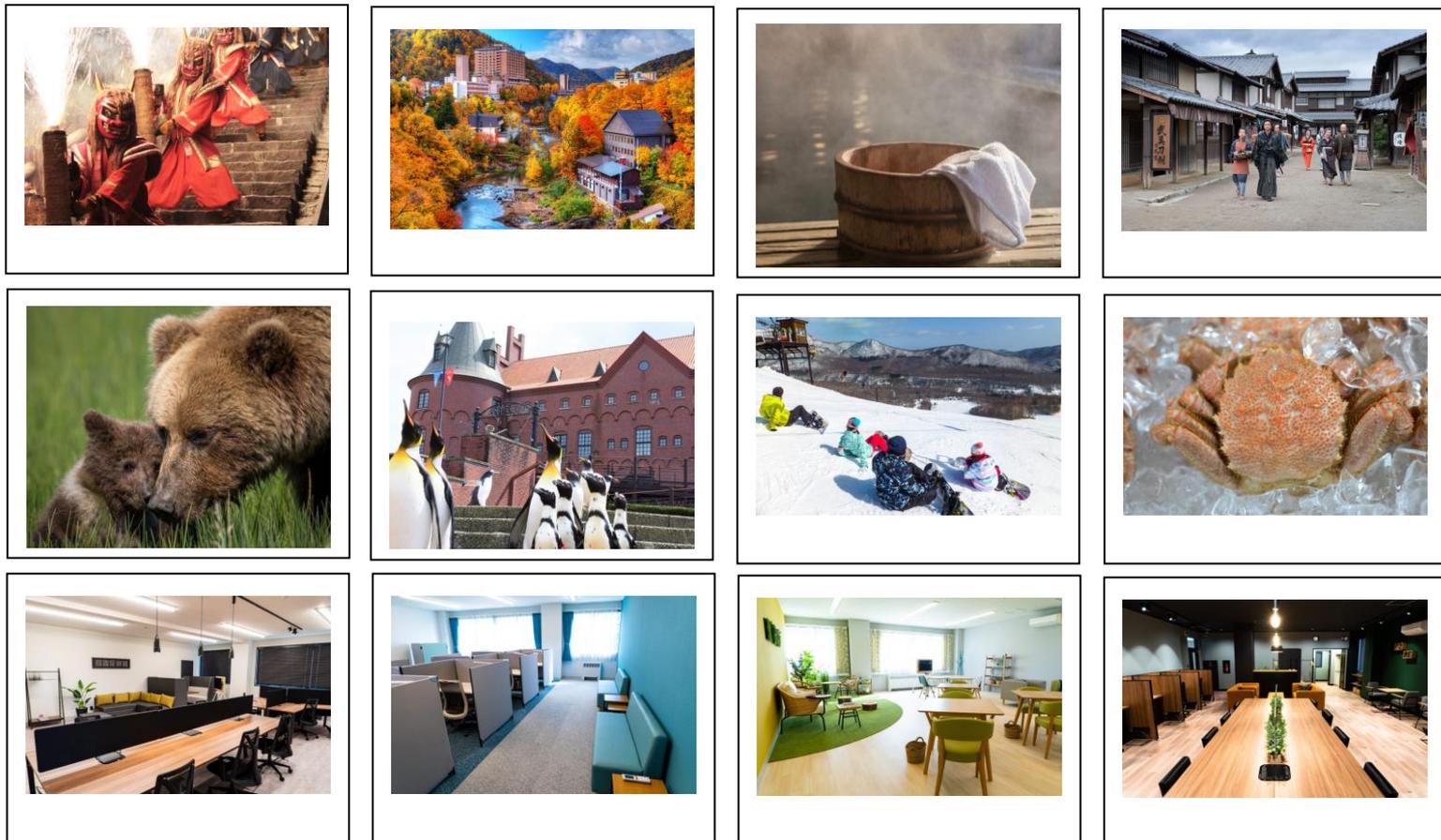


【登別市の魅力】 北海道型ワーケーション in のぼりべつ



【所在地】 登別市

【公式HP】

https://hokkaido-work-vacation.com/model-list/noboribetsu/?fbclid=IwAR0E6a9ImaHMNWCCC6fiE_jMVaKiWPrv_5fs0KFyFgNISSRDHa0qVv3-7Cg

【ここが魅力！】

登別の雄大な自然と懐の大きさを感じることができるワーケーション。テレワーク普及のおかげで山深い静かな温泉郷から、たとえ地球の裏側にある会社とでもつながることが可能になり、またそれが特別なことではなくなり、湯治+オフィス仕事という新しいワーク・ライフスタイルが生まれました。

テレワークでたまったストレスを温泉でその日のうちに癒し、新鮮な山と海の幸を味わい、休日には体を動かして登別の雄大な自然を満喫。それが仕事を頑張ろうというエネルギーになり、メリハリになります。

湯治型ワーケーション カンファレンス in 登別

参加
無料

登別市の奥座敷カルルス温泉地区、日本工学院北海道専門学校のコワーキングスペースを会場に、メンタル休職者等の復帰プログラム「湯治型ワーケーション」の検討を目的にし表記カンファレンスを開催いたします。

各地から招へいた専門家・企業関係者と、登別市の経済関係者、医療関係者の皆様と共に学び、意見交換の場を設けます。ご参加頂けましたら、幸いです。

2022
1.29・30日

会場

日本工学院北海道専門学校
登別市札内町184-3

プログラム

1日目

29
土

- 13:00 開会 場づくり／泉一也:30分
- 13:30 岡山ケースの検証と登別の可能性について
高尾総司:90分
- 15:15 登別の経済・人口分析と湯治型ワーケーションの検討
三宅創太:60分
- 16:30 登別ワーケーション推進にむけての課題整理
並木将央:90分
- 18:00 工学院でのプログラム終了
- 20:00 カルルス地区の方々との意見交換／加藤肇子:60分

2日目

30
日

- 11:00 1日目振り返り／泉一也:90分
- 12:40 ランチ&工学院内コワーキング施設見学／80分
- 14:00 登別関係者と招へい企業の方との意見交換
並木将央:60分
- 15:15 まとめ／泉一也:90分
- 16:50 閉会



講師

- | | |
|------|-------------------------------------|
| 高尾総司 | 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科疫学・衛生学分野 准教授 |
| 並木将央 | 地域リノベーション協同組合代表理事 (株)ロードフロンティア代表取締役 |
| 泉 一也 | 〃 理事 (株)場活堂代表取締役 |
| 加藤肇子 | 〃 理事 (株)まちづくり観光デザインセンター代表取締役 |
| 三宅創太 | 〃 監事 (合)ツクル代表 |

招へい企業とご担当者

- | | | |
|---------------|--------------|-------|
| (株)ワキプリントピア | 代表取締役 | 森川卓也 |
| 田辺三菱製薬(株) | 総務部/働き方改革推進室 | 長澤 優 |
| ノバルティスファーマ(株) | オンコロジー事業本部 | 児玉美貴子 |

お申込み・お問い合わせ

登別市総務部企画調整グループ 煤孫泰洋 TEL.070-7403-4581 susumago4376@city.noboribetsu.lg.jp

1月29日～30日に、日本工学院北海道専門学校で開催された「湯治型ワーケーションカンファレンス in 登別」に一部参加させて頂き、取り組みの魅力や狙いについてお話を伺いました。



コワーキングスペース



サテライトオフィス（リーフタイプ）

Q. 「ワーケーション」の魅力とは？

A. 今の日本ではコロナ禍によりテレワークを初めとした「働き方の多様化」が進んでいます。この施設をサテライトオフィスとして活用を頂く事により、「新たな働き方の創出」、「心を健やかに勤務できる場の提供」を叶えることができ、SDGs目標にも掲げられている「すべての人に健康と福祉を」の達成にもつながると考えています。

Q. それを登別、日本工学院北海道専門学校に設ける事の魅力やメリットとは？

A. 北海道という地域は「癒し」を求めて訪れる方が多い地域です。その北海道の中で、新千歳空港からのアクセスが良く、比較的雪が少ない地域である事が、北海道民だけでなく全国の企業様に活用いただく上での地理的なメリットです。近隣のカルルス温泉は、メンタル治療にも効果があると言われております。

また、「専門学校内のワーキングスペース」である事により、「企業と学生のコラボレーション」、「働き手の創出」が出来、双方にメリットがあると考えます。

Q. 課題は？

A. 新しい取り組みになりますので、多くの企業様にこの取り組みをいかに伝えてゆくかが今の課題です。

(取材協力 登別市総務部 企画調整グループ 企画主幹 煤孫 泰洋 様)



今、コロナ禍により北海道内の各観光地が経済的な打撃を受けており、温泉地を抱える登別市も例外ではありません。

その中で、「登別市の新たな魅力発信の起爆剤に」と考えて取り組みを始めたこの「北海道型ワーケーション」。これからの北海道の「魅力」の一つになるきっかけになるのではないかと、期待が膨らみます。